

2012 年 7 月 22 日 「避けて通れない道」 石川祐司教会長

<訓読のみ言>

『天聖經』

罪と蕩滅復帰 第 4 章 蕩滅路程と私たちの生活 3) なぜ蕩滅復帰が必要なのか

①蕩滅復帰しなければならない 2 種類

私たちが復帰路程を行くのに、なぜ蕩滅法を重要視しなければならないのでしょうか。それは摂理的に見るとき、神様が創造したものを人間が滅ぼしたので、私が再創造しなければならないのです。再創造するためには、神様が創造の役事をするとき、精誠を尽くしたので、私も精誠を尽くす、その条件を復帰するのです。ところで神様がこの宇宙を造るとき、遊びながら踊りながら造ったのではないのです。ありったけの精誠の限りを尽くして、100 パーセント投入して造られたのです。神様が創造された時と同じように、私が再創造するのが復帰の道なのに、ただ遊びながらしますか。(96-114, 1978.1.2)

元来、アダム、エバが成長の各段階を完成するために、各々の責任分担が与えられていました。1 段階の成長期間にはその段階の責任分担を、したがって 3 段階の成長には 3 段階の責任分担を完遂しなければなりません。ここには例外がありません。すべての人は同じ条件をもっていて、責任を完遂することによって成長できます。もし神様が墮落人間に、同じ量の責任分担を要求されたならば、墮落前の本来の位置に私たち自身を復帰する希望は少しもありません。責任分担を完遂できる機会を失った代わりに、私たちは蕩滅条件を立てなければならないのです。(牧会者の道-711)

責任分担と蕩滅は、一つは右側の立場であり一つは左側の立場です。また、一つは右足のようなもので一つは左足のようなものですが、それを失ってしまったのです。責任分担も知らず、蕩滅も知らないのです。ですから、どうやって行くのですか。そのようにしては行くことができないのです。

責任分担と蕩滅復帰を連結しておかなければ、前進は不可能だということを知らなければなりません。そのようなことを考えてみましたか。蕩滅、嫌いでしょう。神様も摂理もみな嫌いでしょう。きょうからは新しく、御飯を食べることを忘れたとしても、寝ることを忘れたとしても、自分の愛する人を思うことを忘れたとしても、これを忘れてはいけません。そのように深刻なのです。

神様もこれを通らなければならず、レバレンド・ムーンも生きてこれを通らなければならず、すべての統一教会の教会員もこれを通らなければならず、全世界もこれを通らなければ行くことができないのです。みな何もなしに通過したいでしょう。博士や教授の位置を、ただ得ることができますか。そのコースを経てこそ博士になれるのでしょうか。それを通過しなければ、それは偽物です。今こそ分かるでしょう。(124-105, 1983.1.30)